

[成果情報名]品種登録候補の新しいカンキツ「西南のひかり」、「津之輝」

[要約]新しい中晩柑類の「西南のひかり」、「津之輝」は、当场においても果実品質が良い。「西南のひかり」は年内収穫可能で剥皮が容易、かつオレンジに似た香りがある。「津之輝」は1月収穫で浮き皮の発生がほとんど無く、含核数も少ないカンキツである。

[キーワード]「西南のひかり」、「津之輝」、果実品質

[担当機関名]果樹試験場・栽培部

[連絡先]0737-52-4320

[部会名]果樹

[分類]研究

[背景・ねらい]

中晩生カンキツは、「清見」、「不知火」、「はるみ」といった糖度が高く剥皮性が良く、じょうのうごと食べられる品種が主流となりつつあるが、これらの品種は2月中旬以降が成熟期であり、年内や1月収穫品種を検討する必要がある。

そこで、昨年10月に品種登録申請となった(独)果樹研究所カンキツ研究部が育成した「西南のひかり」(アンコール×興津早生)×陽香)、「津之輝」(清見×興津早生)×アンコール)について本県での適応性について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 「西南のひかり」の果実は扁球形、果形指数は130～140、果実重は130～200g程度、果皮の粗滑は手で触ると油胞を感じる程度である。剥皮性は易、じょうのう膜薄く、糖度は12月には12度前後になりクエン酸含量も1%未満で、オレンジ様の香りがあり食味は良い。浮き皮の発生は、収穫時期の12月になると発生する年もある(表1)。
2. 「津之輝」の果実は扁球、果形指数120～130、果実重160～220g程度、果皮の粗滑は中～粗、種子は少ない。剥皮性は中～やや難、じょうのう膜薄く、糖度は1月に12～13、クエン酸1～1.5%で、アンコールに似た香りがあり嗜好性が良好である(表2)。
3. 「西南のひかり」は12月上旬から下旬にかけて糖度12度前後、クエン酸1%程度になっており、「津之輝」1月になると糖度12度以上になっているがクエン酸含量が年によりやや高いときもあった(表3,4)。
4. 浮き皮の発生は、「西南のひかり」で2007年度12月上旬から発生し始め、年により発生の程度が違ったが、「津之輝」は1月になっても発生がほとんどなかった(表5)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「西南のひかり」は年内収穫用品種であり、浮き皮やす上がりが発生が見られる年もある。また、樹勢が弱く、トゲの発生も見られるため適正着果や樹勢の維持を図る必要がある。
2. 「津之輝」は1月収穫用品種で、浮き皮の発生が少ない(一部、結実量が少ないときなどに見られる場合がある)。樹勢は中程度で着果性が良好であり、トゲの発生がほとんど無い。また、含核数が少なく、無核の果実もある。樹勢の良い若木の時に、果頂部のへその部分が突出する「へそ果」が出やすいが、樹勢が落ち着くと少なくなる。
3. 「西南のひかり」、「津之輝」は品種登録申請中であるため、果実調査結果は系統適応性検定試験を行った当场をはじめ全国の柑橘関係の試験場のみである。今後適地条件や栽培方法の検討が必要である。

[具体的データ]

表1 「西南のひかり」の系統適応性検定試験結果

調査日	果形	果形 指数	果実重 g	果肉 歩合 %	果皮 粗滑 1)	剥皮性 2)	種子		じょう のう	嗜好性	す上がり 程度 3)	浮皮 程度 4)	糖度 %	酸度 %	糖酸比
							完全	不完全							
2003.12.8	扁球	139	139	76.7	中	易	1.0	0.6	0.26	良	軽	無	13.7	1.00	13.7
2004.12.20	扁球	131	195	75.6	中	易	4.8	0.2	0.50	中	無	1.2	11.8	0.86	13.7
2005.12.19	扁球	132	138	76.6	中	易	5.8	0.1	-	良	無	0.4	12.4	0.95	13.1

表2 「津之輝」の系統適応性検定試験結果

調査日	果形	果形 指数	果実重 g	果肉 歩合 %	果皮 粗滑 1)	剥皮性 2)	種子		じょう のう	嗜好性	す上がり 程度 3)	浮皮 程度 4)	糖度 %	酸度 %	糖酸比
							完全	不完全							
2004.1.20	扁球	130	169	81.1	やや粗	中	0.0	0.0	0.14	良	無	無	13.9	1.01	13.8
2005.1.19	扁球	120	224	76.3	粗	やや難	2.6	0.2	0.30	良	無	1.0	13.5	1.09	12.4
2006.1.5	扁球	127	160	76.9	中	やや難	0.8	0.2	-	中	無	0.0	11.9	1.47	8.1

※調査は、カンキツの調査方法(1987)による

1)観察による、粗:果面の凹凸が甚だしい、中:果面に凹凸がある、滑:果面の凹凸がほとんどない。

2)易:手で容易に剥ける、中:中間、難:手で剥くのは困難。

3)無(0):す上がりが無い、軽(1):わずかにす上がりが認められる、中(2):す上がりが果肉の1/4以下、甚(3):果肉の1/4以上す上がり

4)無(0):浮皮が無い、軽(1):わずかに浮皮が認められる、中(2):浮皮が果皮の1/4以下、甚(3):浮皮が果皮の1/4以上発生している。

表3 「西南のひかり」及び「津之輝」の糖度、クエン酸含量の推移(2006)

		11/20	12/7	12/19	1/4	1/22
糖度(Brix)	西南のひかり	11.0	—	11.8	12.2	12.2
	津之輝	10.9	11.4	11.2	12.4	12.5
クエン酸(%)	西南のひかり	1.13	—	0.88	1.11	0.92
	津之輝	1.71	1.28	1.51	0.86	1.26

表4 「西南のひかり」及び「津之輝」の糖度、クエン酸含量の推移(2007)

		10/18	11/19	12/6	12/19	1/7	2/7
糖度(Brix)	西南のひかり	11.0	11.4	12.8	13.4	—	13.6
	津之輝	10.6	11.5	13.5	12.6	14.0	13.4
クエン酸(%)	西南のひかり	1.90	1.14	1.16	1.10	—	0.67
	津之輝	2.26	1.49	1.46	1.48	1.43	1.08

表5 「西南のひかり」「津之輝」における浮き皮程度の推

		年度	10/18	11/19	12/6	12/19	1/7
西南のひかり	2007	0.0	0.0	0.8	2.3		
	2006	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
津之輝	2007	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2006	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※浮き皮指数0~3

[その他]

研究課題名:カンキツ及びビワの系統適応性検定試験

予算区分:国庫、県単

研究期間:2001年~2010年

研究担当者:中地克之、森口幸宣、大橋弘和

発表論文等:なし